

現場の声を貧困政策にどうつなげるか～CSW68にむけて～  
登壇者のご紹介



田宮遊子(たみや・ゆうこ) <神戸学院大学経済学部教授>  
神戸学院大学経済学部教授。お茶の水女子大学博士後期課程単位取得退学。専門は社会保障論。年金や児童扶養手当などの所得保障についてジェンダー視点から分析している。  
主な著書・論文に、『子どもの貧困』がもたらした政策転換』『世界』2023年、「遺族年金の所得保障機能についての考察』『年金と経済』2022年、「親の配偶関係別にみたひとり親世帯の子どもの貧困率」『社会保障研究』2017年、共著『最低所得保障』2010年、他。

松元ちえ(まつもと・ちえ)

<ジャーナリスト/女性による女性のための相談会実行委員会>  
ジャーナリスト/エディター、法政大学非常勤講師。英字紙記者、海外通信社で東京特派員として勤務したのち独立。東京大学大学院情報学環学術支援員などを務めるなどして、デジタルメディア「アンフィルター(Unfiltered.coop)」を設立。コロナ禍で「女性による女性のための相談会」実行委員として実施した相談会は東京、神奈川、静岡、兵庫など各地に広がる。

共著に『失敗しないためのジェンダー表現ガイドブック』(小学館2022)、『マスコミ・セクハラ白書』(文藝春秋2022)、共同翻訳には「世界を動かす変革の力～ブラック・ライブズ・マター共同代表からのメッセージ」(明石書店2021)などがある。



大矢さよ子(おおや・さよこ) <わくわくシニアシングلز代表>  
1950年生まれ。20代から30代は民間会社で働き長女出産・子育てを両立させるも、次女妊娠を機に退職、専業主婦になる。40代で離婚。社会保険労務士、1級FP技能士などの資格を取得し、子ども2人を育て、2023年3月末でリタイア。1998年から母子家庭団体にかかわり、理事などを務める。2014年に中高年シングル女性の集まりである「わくわくシニアシングلز」を設立、代表を現在まで務める。  
主な著書に「Q&A実務家が知っておくべき社会保障」(共著 加除出版2014)「シニアシングلز女たちの知恵と縁」(共同編集 大月書店2018)。

金尻カズナ(かなじり かずな)

<NPO法人ぱっぷす 理事長>  
2004年からアダルトビデオを含むポルノ被害の深刻さを社会に訴えるために社会活動を始め、セクシャリティをめぐるさまざまな問題について取り組む。その中で多くの女性や子どもたち、時には男性ですら、性産業によって傷つきながら被害を訴えられない現実がみえてきた。2012年以降、ネット社会によってこれまでとは次元の違う性暴力・性被害が起きており、AV出演や性産業で困った問題に直面された方への相談支援、リベンジポルノ・子どもポルノの被害相談支援など「デジタル性暴力」をめぐる相談支援に携わっている。もともとは相談支援とは全く別の業界(ネットワークやシステムのエンジニア)にいたことから、これまでの知識を活かしてこの問題に取り組んでいる。

